

口は健康のもと Vol.101

歯の被せ物に詳しくなりましょう

～ 材料次第で手入れもいろいろ ～

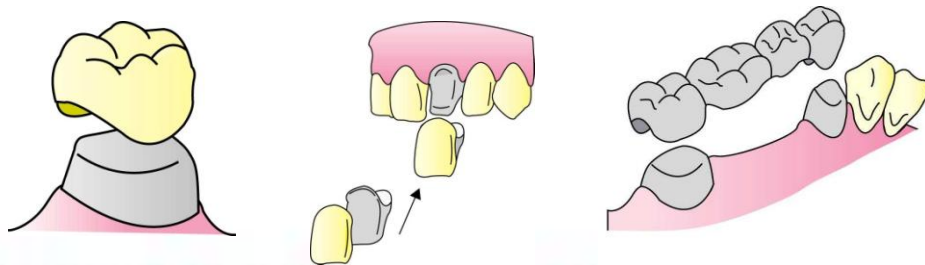
歯科の診療は、一般的には「歯の充填（詰め物）」、「入れ歯・冠を被せる」、「歯を抜く」といった内容です。今回から3回にわたり、特に「冠を被せる」をテーマに患者さんが不安に思っていることを中心に述べてみたいと思います。

冠の被せ物は、クラウン・ブリッジ（冠・橋義歯）と呼びますが、診療している際に患者さんから質問の多い項目の中から①クラウン・ブリッジにはどんな種類があるの？ ②お手入れは必要？ ③修理できるの？—について説明します。

クラウンの種類には、材料で大きく分けると金属、プラスチック（レジン）、そして焼き物（陶材）があります。プラスチックは前歯であれば保険適応で衝撃に比較的強いのですが、経年的に色が変わる可能性があります。また、焼き物は衝撃には弱く自費となり高価ですが、経年的な色の変化が少ないのが特徴です。

形に関しては1本ずつのクラウンと数本にわたるブリッジ（橋義歯）があります。ブリッジの場合、歯がない部分をポンティックと呼びますが、歯茎から浮いている構造なので、通常よりも汚れやすくなります。また、噛み合わせや歯周病の問題でクラウン同士を連結する場合があります。

どんなクラウン・ブリッジが入っているかによって、お手入れ方法や、万が一壊れた時の修理・治療方法が異なります。自分の口に入っている冠やブリッジを詳しく知ることが大切です。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 講師 影山 勝保

